

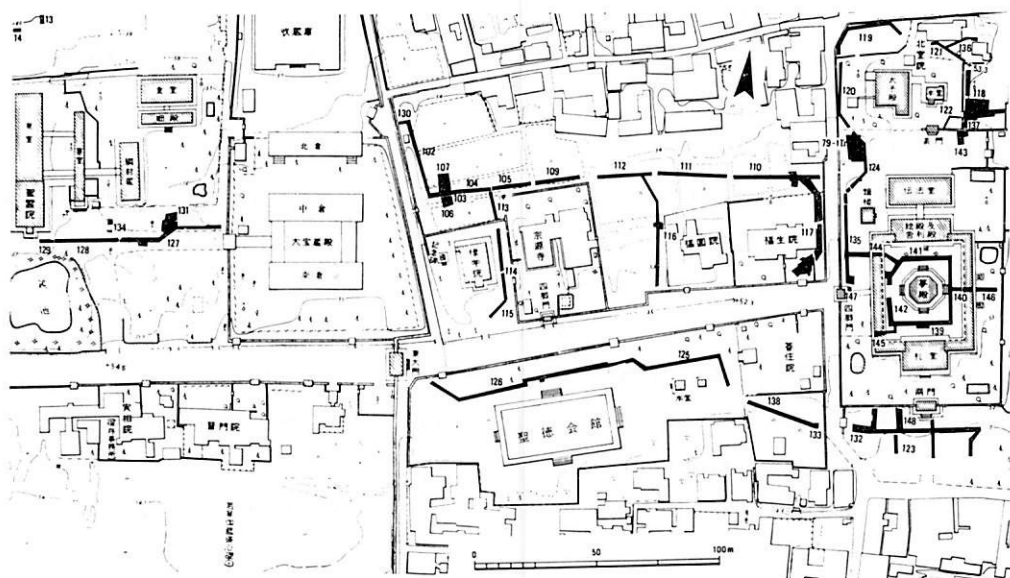
法隆寺の調査

平城宮跡発掘調査部

昭和56年度法隆寺防災工事に伴う発掘調査は、昭和56年6月1日から昭和57年3月30日まで継続的に行なわれた。設定した調査区は48カ所、発掘総面積は1700 m²である。調査は法隆寺の依頼を受けて、奈良国立文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所、奈良県文化財保存事務所法隆寺出張所が共同でこれにあたった。本年度の調査は、西院地区、東院地区および両地区の間の中間地区の3カ所で行った。以下、各地区の調査結果の概要を報告する。

西院地区 聖霊院南側から大宝蔵殿に至る間で調査を行なった。聖霊院南側の第128・129調査区で南北にのびる谷状の大溝 SD 2140 を検出した。若草伽藍に伴う遺物を含み西院伽藍造営時に埋立てられている。若草伽藍の西限を画す溝であった可能性がある。綱封蔵前の第127調査区では小規模な掘立柱建物2棟が検出され、いずれも西院造営時もしくはその後まもなく建てられた仮設建物か雑舎と考えられる。中近世の遺構には中世の池状遺構と道路状遺構、近世の建物基壇、築地基壇などがある。近世の2条の築地は、明治期まで存在していた金剛院・政蔵院などの子院に関する遺構である。

東院地区 東院では、回廊内第141調査区と西回廊外第135調査区で、西で南にふれる大溝 SD 1300 を検出した。この溝は幅約156 m、深さ1.8 mの断面「U」字形を呈する素掘溝である。少量ではあるが埋土内に7世紀末から8世紀前葉の土器片を含み、東院下層の斑鳩宮跡と推定されている掘立柱建物の方位とはほぼ一致するところから、その南限を画する溝と推定される。SD 1300の南約10 mで旧地形は急にさがり、東院造営にあたって最大約2.5 mにおよぶ



調査位置図

整地を行なっている。東院南門前の調査区の成果を総合すると、北方からのびてきた台地の裾線が東院の東南隈から東院四脚門南寄りを結ぶ線にあり、台地縁辺に添って庄内期の自然河川が流れる旧地形が復元される。現東院伽藍北方、北室院境内の第118調査区では、掘立柱建物3棟、掘立柱塀4条、平安時代の土壇1基、室町時代の土壇と井戸各1基などを検出した。掘立柱建物3棟はいずれも奈良時代のもので、調査区西端で検出した桁行2間の建物SB1220は『東院資財帳』にみえる僧坊の可能性がある。同じく北室院内第119調査区東端で検出したSD1250は、埋土中に7世紀の土器片を含み斑鳩宮の東限を画する溝と考えられる。

中間地区 西院と東院をつなぐ参道の北方と南方で調査を行なった。律学院北方第102調査区で検出した河川SD1001は最下層に古墳時代の土師高杯と7世紀代の土師器・須恵器を含む。すでに1959年の聖徳会館建設予定地の調査においてもその一部を検出しており、聖徳会館北側の第126調査区でも今回のその延長部を検出した。子院関係の成果では、正覚寺・蓮花院・宗源寺・金剛院にそれぞれ池をもつ庭園があったことが判明した。また井戸も各種の構造のものが検出されており、子院の区画を考える手掛りの一つとなっている。

遺物 出土遺物には瓦埴、土器、木製品、石製品、銭貨、ガラス製品などがある。瓦埴類は飛鳥時代から近世に至る各時代のものが多量に出土している。西院伽藍創建時の軒平瓦の凹面に、粘土板の合わせ目のはがれ痕のあるものがあり、「軒平瓦種巻作り」技法の存在を示している。また瓦製小塔の屋蓋と考えられる特殊瓦製品が出土している。土器類では西院綱封蔵前と中間地区の律学院北地区で、7世紀前半の土器がまとまって出土した。西院地区の聖霊院の前面にあたる位置で検出した南北大溝SD2140の上層から出土した土器は、7世紀～8世紀初頭のもので、焼土を伴うところから、天智8・9年(669～670)の斑鳩寺羅災に関連する可能性がある。また、大溝SD2140東方の土壇SK2135からは10世紀前半～中頃の良好な一括資料を得た。中・近世の土器・陶器は莫大な量にのぼり、子院の変遷を考える上に重要な資料である。

まとめ 本年度の調査によって明らかとなった点をまとめておく。

1. 聖霊院前で検出した谷状の大溝は、若草伽藍の西限にあたると推定される。埋土中には天智年間の火災によると思われる焼土層や、西院造営に伴う整地層が認められる。

2. 1959年の聖徳会館建設に伴う事前調査で検出した飛鳥時代の河川跡を、新たに2カ所で検出し、旧地形の復原についての有力な手掛りを得ることができた。

3. 東院回廊内と西回廊外で、斑鳩宮の南限と推定される大溝を検出した。

4. 東院周辺のトレンチでの成果から、斑鳩宮は南側に突き出した丘陵の突出部に営まれ、東院造営に当って大規模な整地を行っていることが判明した。

5. 東院北方北室院境内で、東院伽藍の方位とほぼ一致する掘立柱建物3棟を検出した。内1棟は東院僧坊の可能性がある。

(杉山 洋)